

立命館大学大学院
2024年度実施 入学試験

博士課程前期課程

文学研究科

人文学専攻・日本史学専修

入試方式	実施月	コース	専門科目		外国語(英語)					
			ページ	備考	ページ	備考				
一般入学試験	9月	研究一貫	P.1～		P.8～					
	2月		P.10～		×					
	9月	高度探究	P.1～		/					
	2月		P.10～							
社会人入学試験	9月	研究一貫	P.1～				/			
	2月		P.10～							
	9月	高度探究	/		/					
	2月									
外国人留学生入学試験 (RJ方式)	9月	研究一貫					P.1～		/	
	2月						P.10～			
	9月	高度探究	P.1～		/					
	2月		P.10～							
学内進学入学試験	9月	研究一貫	/				/			
	2月									
	9月	高度探究			/				/	
	2月									
APU特別受入入学試験	9月	研究一貫	/				/			
	2月									
	9月	高度探究			/				/	
	2月									

【表紙の見方】

×・・・入学試験の実施がなかった等の理由で入学試験問題の作成がなかったもの、または、問題を公開しないもの
斜線・・・学科試験(筆記試験)を実施しないもの

立命館大学大学院
2024年度実施 入学試験

博士課程後期課程

文学研究科

人文学専攻・日本史学専修

入試方式	実施月	外国語(英語)	
		ページ	備考
一般入学試験	2月	P.16~	
外国人留学生入学試験	9月		
	2月		
学内進学入学試験	2月		

【表紙の見方】

×・・・入学試験の実施がなかった等の理由で入学試験問題の作成がなかったもの、または、問題を公開しないもの
斜線・・・学科試験(筆記試験)を実施しないもの

※試験終了後、ホッチキスで綴じること(太線の4箇所)

2025年度 立命館大学大学院文学研究科入学試験問題

2024年9月7日

博士課程前期課程 人文学専攻
日本史学専修

「専門科目」

全 10 ページ

●受験上の注意

- ① 試験中、冊子をばらしても構わないが、終了後再び綴じて提出すること
(ホッチキスを貸与します)
- ② 全ての用紙に受験番号、氏名等を記入し、提出すること

●試験中の持込許可物件について

- ① 筆記用具、受験票、時計以外の持込は認めない



文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学専攻 (日本史学専修)	前期課程	専門科目	<input type="checkbox"/> 研究一貫 <input type="checkbox"/> 高度探究		

問一 次の六題から一つを選んで、論述せよ。

- (一) 近年の「国風文化」をめぐる議論について、論点を提示した上で自分の考えを述べよ。
- (二) 室町期の文化について、近年の研究動向を踏まえつつ論ぜよ。
- (三) 兵農分離について、研究史を挙げつつ論述せよ。
- (四) 「日本近現代の国民統合」と題して自由に論ぜよ。
- (五) 「日本の近代化と〇〇〇〇」と題して、重要と考える思想家・思想団体・思想潮流について自由に論ぜよ (〇〇〇〇を解答者自身が埋めること)。

問二 次の六つの語句から四つを選び、それぞれ三〜五行程度で説明せよ。

- ① 日本靈異記
- ② 家司
- ③ 観心の擾乱
- ④ 具原益軒
- ⑤ 靖国神社
- ⑥ 内難事件

文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学専攻 (日本史学専修)	前期課程	専門科目	<input type="checkbox"/> 研究一貫 <input type="checkbox"/> 高度探究		

問三 次の史料問題(一)～(四)から二つを選んで、解答せよ。

(一) 次の史料を読み、以下の問いに答えよ。

(1) 傍線部を読み下しなさい。その際、旧字は新字(常用漢字)に直し、句読点をつけること。

(2) 傍線部を現代語訳しなさい。

(3) 文中の空欄部に適切な僧侶名を入れなさい。

冬十月辛卯、律師()法師卒。〈天平元年爲律師。〉法師俗姓額田氏、添下郡人也。性聰悟爲衆所推。大寶元年隨使入唐。涉覽經典、尤精三論。養老二年歸朝。是時釋門之秀者唯法師及神叡法師二人而已。著述愚志一卷論僧尼之事其略曰今察日本素經行佛法軌模全異大唐遺俗傳聖教法則若順經典能護國土如違憲章不利人民一國佛法方家修善何用虛設豈不慎乎。弟子傳業者、于今不絶。屬遷造大安寺於平城、勅法師勾當其事。法師尤妙工巧、構作形製皆慕其規摹。所有匠手莫不歎服焉。卒時年七十有餘。

〔出典〕黒板勝美・国史大系編集会編『新訂増補国史大系(普及版) 続日本紀』前編、一七九頁(吉川弘文館、一九七六年)

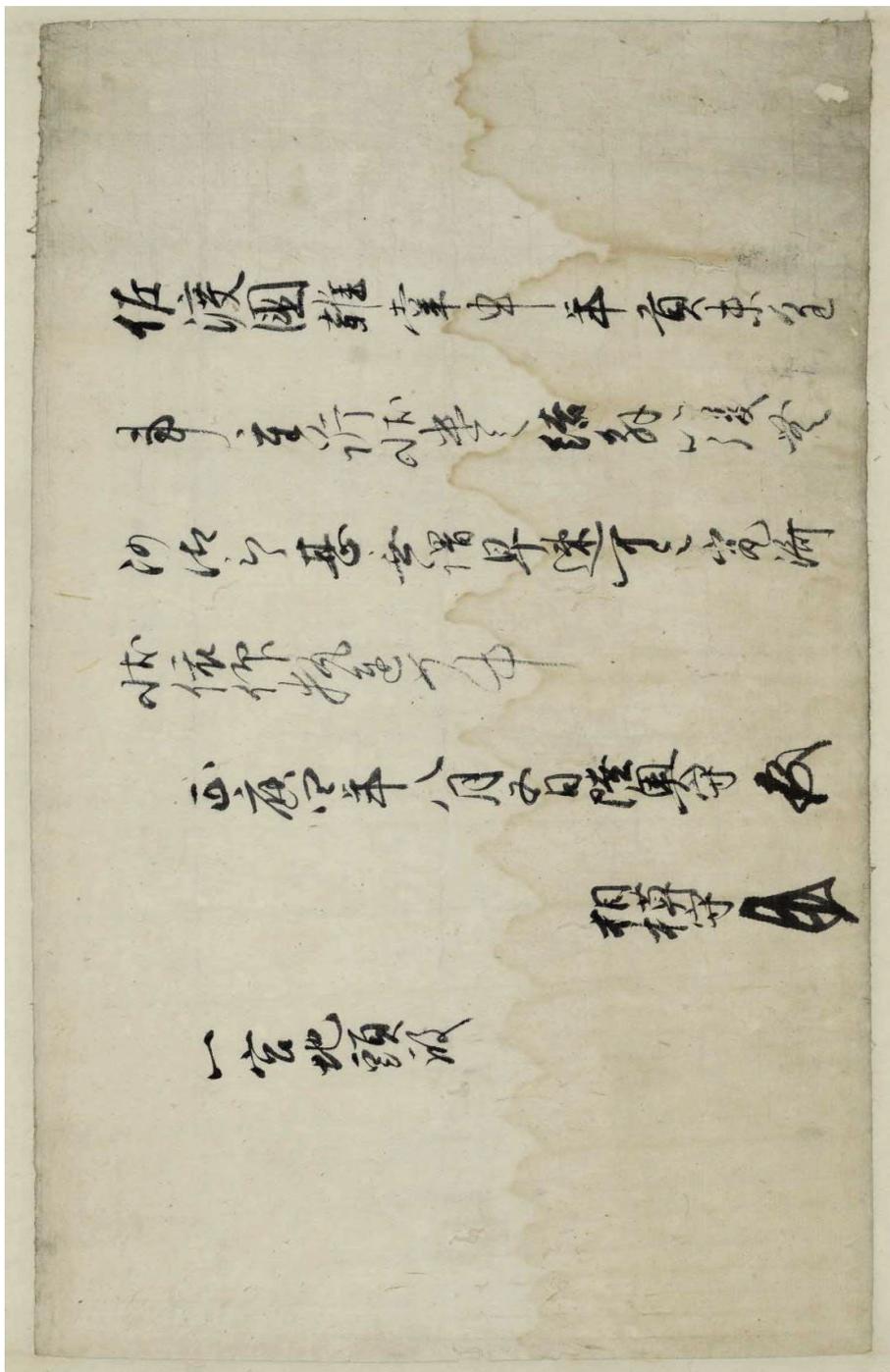
文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学専攻 (日本史学専修)	前期課程	専門科目	<input type="checkbox"/> 研究一貫 <input type="checkbox"/> 高度探究		

(1) 次に示す古文書写真に関する設問 (1) ～ (3) に答えよ。

- (1) この古文書の釈文を作れ。改行は原文通りに行い、返り点・読点を付け、異体字・正字 (旧漢字) は対応する常用漢字 (新字) があれば、その類に改めよ。
- (2) この古文書の読み下し文 (書き下し文) を作れ。
- (3) この古文書に適切な文書名を付け、本文の内容をわかりやすく説明せよ。

〔出典〕 東寺百合文書WEB <https://hyakugo.pref.kyoto.lg.jp/contents/detail.php?id=28475>



専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学 専攻 (日本史学専修)	前期課程	専門科目	<input type="checkbox"/> 研究一貫 <input type="checkbox"/> 高度探究		

(三) 次の史料を読み、以下の問いに答えよ。

覚

一、(A) 大野主馬子宗室と申もの、近江三罷候を、於江戸訴人出捕候、宗室母はんせいハ主馬女房ニテ候、是又捕候、但、はんせいハ(B) 一乱之刻、権現様命を御たすけ被成候事、

一、主馬儀未存命ニ有之由取沙汰仕候間、無油断穿鑿可仕候、(C) 若隠置訴人有所を於申来者、宿主之儀者不及申、其町中曲事ニ可被仰付候間、此旨穿鑿可仕候也、

(D) 右之通京都町中不殘可相觸者也、

丑(慶安二年)二月五日 (E) 周防(黒印)

下京町代

〔出典〕「坂田房之助氏所蔵文書」

(1) 傍線部 (A) の人物は誰か。①その名前を答えよ。また、②母の通称名、及び③兄の名前を答えよ。

(2) 傍線部 (B) の一乱とは何を指すか、その経緯について知るところを述べよ。

(3) 傍線部 (C) を現代語訳せよ。

(4) 傍線部 (D) を読み下し文(書き下し)にせよ。ただし、すべてひらがなにすること。

(5) 傍線部 (E) の人名を答えよ。

文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名 人文学専攻 (日本文学専修)	課程 前期課程	科目 専門科目	コース □研究一貫 □高度探究	受験番号	氏名
-----------------------------	------------	------------	-----------------------	------	----

(四) 次の史料を読み、設問に答えよ。(適宜読みやすく改めている)

以書状致啓上候。然は今般仙台藩
 伊達英橋・伊達勝三郎家来共与和
 別紙式通之通り伺出候。然ル處当九月
 廿日長官始出船後、地所願出候諸藩等江
 御割渡相成候時は、一応石狩府江御問合
 之上ならでハ御聞濟不相成様伺濟相成
 居候廉にも致相違、当府江未夕何等之
 御達も無之取計兼候得共、畢竟札幌郡
 之儀ハ御案内之通本府取建候地所ニ付、
 同人共江相応之土地割渡、開墾為致候
 儀ハ格別之事ニ候得共、支配卜申義不都合ニ
 存候。尤空知郡等之儀も最前願出候向ニハ
 支配被仰付候管之处、上川郡卜連リ札幌
 本府も漸々取開候得ハ後来之御為メニ可相
 成と存、先般右上川、空知其外共最早御割渡ニ
 不被差出、御親料ニ被成置度旨以急飛
 申上置候處、未夕何等之御沙汰無之処、
 突然確証も持參不致、前段之通仙台藩
 中之者共願出候通ニハ不都合之義ニ付、
 弁官中江も御打合相成は勿論、至急
 否御答可被下候様存候。此段聽下急飛
 を以、得御意候条、如斯候也。

島 從四位

十二月二日

義勇(花押)

松浦判官殿

岩村権判官殿

(開拓使東京出張所『開拓使公文録原本一・一一』)

文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学専攻 (日本文学専修)	前期課程	専門科目	<input type="checkbox"/> 研究一貫 <input type="checkbox"/> 高度探究		

- (1) 傍線部を平仮名に直せ。(適宜濁音などを補うこと)
- (2) 島義勇がこの書状の中で示している不満について説明せよ。
- (3) 宛先の松浦判官とは誰か。フルネームで答えよ。
- (4) この書状は何年に送られたと考えられるか。その判断する理由も併せて答えよ。(何年〜何年の間という解答の仕方で良い)

※試験終了後、ホッチキスで綴じること(太線の4箇所)

2025年度 立命館大学大学院文学研究科入学試験問題

2024年9月7日

博士課程前期課程 人文学専攻
日本史学専修

「外国語」(英語)

全 3 ページ

●受験上の注意

- ① 試験中、冊子をばらしても構わないが、終了後再び綴じて提出すること
(ホッチキスを貸与します)
- ② 全ての用紙に受験番号、氏名等を記入し、提出すること

●試験中の持込許可物件について

- ① 英語辞書の持込は認める
(電子辞書・専門用語辞書は不可)
- ② 上記①の他には、筆記用具、受験票、時計以外の持込は認めない



文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学 専攻 (日本史学専修)	前期課程	外国語 (英語)	<input type="checkbox"/> 研究一貫		

次の英文を和訳しなさい。

For fifteen years following the publication of his Treatise, his life was a continuous battling with the powers and principalities of this world. He was first banished to Idzu where he remained three years, making converts in his exile. On his return to Kamakura he was entreated by his followers to stop “warfare” and devote himself mostly to their edification; to which his decided answer was that “now in the beginning of Latter Day Laws, when the virulence of errors is so strong, polemic attack is a necessity as medicine to a disease at its crisis, and is a mercy, though it does not appear so.” He at once resumed his old attitude,—an incorrigible priest he,—heedless of the destruction now hanging over his head. One evening, when on his missionary tour with several of his disciples, he was suddenly attacked by a company of men swords in hand. The leader of the attacking party was no other than the landlord who had determined upon the removal of the audacious renovator at the time of his proclamation of the new doctrines four years ago. Three of his disciples were killed, one priest and two laymen, in their effort to save the life of their master. Thus the Sutra had its first martyrs in Japan, precious to the memory of the myriad who now put their trust in the same. Nichiren escaped with a wound in his forehead, the mark of his fidelity to the Law.

※試験終了後、ホッチキスで綴じること(太線の4箇所)

2025年度 立命館大学大学院文学研究科入学試験問題

2025年2月8日

博士課程前期課程 人文学専攻
日本史学専修

「専門科目」

全 10 ページ

●受験上の注意

- ① 試験中、冊子をばらしても構わないが、終了後再び綴じて提出すること
(ホッチキスを貸与します)
- ② 全ての用紙に受験番号、氏名等を記入し、提出すること

●試験中の持込許可物件について

- ① 筆記用具、受験票、時計以外の持込は認めない



文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学専攻 (日本史学専修)	前期課程	専門科目	<input type="checkbox"/> 研究一貫 <input type="checkbox"/> 高度探究		

問一 次の五題から一つを選んで、論述せよ。

- (1) 古代において、障がいのある人へ行われた施策について論述せよ。
- (2) 日本中世の国家と仏教の関係について、研究史を中心に論述せよ。
- (3) 近世の書物文化について、知るところを述べよ。
- (4) 日本の近現代史（明治維新～現代）の特質を捉えるに際して、重要と考える論点を一つ設定し自由に論ぜよ（自分の思いを述べるのではなく、論理的に論ずること）。
- (5) 国民的歴史学運動が戦後の歴史学にもたらした影響について論じよ。

問二 次の六つの語句から四つを選び、それぞれ三～五行程度で説明せよ。

- ① 受領
- ② 神領興行令
- ③ 一条兼良
- ④ 明暦の大火
- ⑤ 古社寺保存法
- ⑥ 内務省

文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名 人文学専攻 (日本史学専修)	課程 前期課程	科目 専門科目	コース <input type="checkbox"/> 研究一貫 <input type="checkbox"/> 高度探究	受験番号	氏名
-----------------------------	------------	------------	---	------	----

問三 次の史料問題(一)～(四)から二つを選んで、解答せよ。

(一) 次の史料を読み、以下の問いに答えなさい。

- (1) 傍線部①の人物の名を記せ。
- (2) 傍線部②を読み下しなさい。その際、旧字は新字(常用漢字)に直し、句読点も入れなさい。
- (3) 傍線部②の中にある「器」とは何か。具体的に説明しなさい。
- (4) 傍線部③から読み取れる点を自由に論じなさい。

葬①太皇太后于深谷山。遺令薄葬、不營山陵。……父清友、少而沉厚、涉獵書記。身長六尺二寸、眉目如画、舉止甚都。

②寶龜八年高麗國遣使修聘清友年在弱冠以良家子姿儀魁偉接對遣客高麗大使獻可大夫史都蒙見之而器之。問通事舍人山於野上云、彼一少年、爲何人乎。野上對、是京洛一白面耳。都蒙明於相法。語野上云、此人毛骨非常、子孫大貴。野上云、請問命之長短。都蒙云、卅二有厄、過此無恙。其後清友娶田口氏女、生后。延曆五年爲內舍人、八年病終於家。時年卅二。驗之果如都蒙之言。后爲人寬和、風容絕異。手過於膝、髮委於地。觀者皆驚。嵯峨太上天皇、初爲親王納后。寵遇日隆、天皇登祚。……③后骨多造寶幡及繡文袈裟、窮盡妙巧、左右不知其意。後遣沙門萬壽泛海入唐、以繡文袈裟奉施定聖者僧伽和上康僧等以寶幡及鏡奩之具、施入五臺山寺。

〔出典〕黒板勝美・国史大系編修会編『新訂増補国史大系〈普及版〉日本文徳天皇実録』(吉川弘文館、一九七三年)

文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学専攻 (日本史学専修)	前期課程	専門科目	<input type="checkbox"/> 研究一貫 <input type="checkbox"/> 高度探究		

(三) 次の史料を読み、以下の問いに答えよ。

(表紙) 「 元禄七年

村仲法度判形帳

九月 日

覚

一、此度惣百姓立合、相改候、前々之通、組内心だて悪敷我儘成横道者今以老人も無御座候、尤毎月寄合、組之内相互に吟味仕ル事ニ候、①此上自今以後心だて悪敷耕作不情ニ而作物植付修理等觸相仕田畑荒シ徒ニ暮シ、或ハ親子兄弟妻子親類縁者他人等ニ不謂族ヲ申不届成儀御座候ハ、組之内ニ而随分異見仕、其上ニも承引不致候ハ、早速各々注進可仕候、若見通し聞のがし用捨仕置後日ニ相知し候ハ、本人ハ不及申、其組中両隣共如何様之越度ニも可罷成候事、

(中略)

一、隣之可申候、尤生魚生鳥不寄何ニの分いけかこい賣買仕間敷候旨兼々被仰渡承知仕候、弥堅相守可申候、萬一相背仕候ハ、如何様共②御公儀様へ可被申上候事、

(後略)

〔出典〕「酒井吉太郎氏文書」

- (1) 空欄に入る語を漢字で答え、その概要について当該史料の内容を踏まえつつ簡潔にまとめよ。
- (2) 傍線部①を読み下し文(書き下し)にせよ。ただし、全てひらがなで記し、適宜読点も付すこと。
- (3) 空欄に入る語を漢字で答え、この箇条の歴史的意義について知るところを述べよ。
- (4) 傍線部②「御公儀様」とはどのような意味か。研究史を踏まえつつ述べよ。

文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学専攻 (日本史学専修)	前期課程	専門科目	<input type="checkbox"/> 研究一貫 <input type="checkbox"/> 高度探究		

(四) 次の史料を読んで、①～④の問いに答えよ。なお、史料は一部読みやすく改めている。

衆議院彼は腰を抜かして、尻餅を搦きたり、総理大臣 (A) の演説に震慄し、解散の風評に畏怖し、両度迄否決したる即ち幽霊とも謂ふべき動議を、大多数にて可決したり、衆議院の予算決議案を以て、予め政府の同意を求めて、乃ち政府の同意を哀求して、其鼻息を伺ふて (B)、然後に唯々諾々其命是れ聴くことと為れり、議一期の議会にして、同一事を三度迄議決して、乃ち竜頭蛇尾の文章を書き、前後矛盾の論理を述べ、信を天下後世に失することと為れり、無血虫の陳列場……己みなん、己みなん (無血虫の陳列場、『立憲自由新聞』一九五号②、明治二十四年二月二一日)。

- ① この論説は、当該時期の帝国議会での政党の動向を嘆いたものである。この論説の筆者は誰か。
- ② 傍線部 (A) の総理大臣は誰か。フルネームで答えよ。
- ③ 傍線部 (B) の動向は、ある法令上の条項の規定に左右された面も大きい。その法令上の条項を答えよ。
- ④ こうした帝国議会内の抗争が起こった背景について、五行程度で説明せよ。

※試験終了後、ホッチキスで綴じること(太線の4箇所)

2025年度 立命館大学大学院文学研究科入学試験問題

2025年2月8日

博士課程後期課程 人文学専攻
日本史学専修

「外国語」(英語)

全 4 ページ

●受験上の注意

- ① 試験中、冊子をばらしても構わないが、終了後再び綴じて提出すること
(ホッチキスを貸与します)
- ② 全ての用紙に受験番号、氏名等を記入し、提出すること

●試験中の持込許可物件について

- ① 筆記用具、受験票、時計以外の持込は認めない



文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	受験番号	氏名
人文学 専攻 (日本史学専修)	後期課程	外国語 (英語)		

次の英文を和訳しなさい。

The conclusion of the Tripartite Pact further hardened the US' stance toward Japan. The Second Konoe Cabinet commenced negotiations with the US in an attempt to avoid conflict between the two nations. US-Japan talks that began at the end of 1940 with private citizens developed into formal government-level negotiations between Nomura Kichisaburō (1877-1964) and Secretary of State Cordell Hull (1871-1955).

Around the same time, Foreign Minister Matsuoka Yōsuke, who had been visiting Germany and Italy to reinforce the partnership of the Tripartite Pact, concluded the **Soviet-Japanese Neutrality Pact** in Moscow in April 1941 while returning to Japan. Japan's aims with this agreement were to facilitate advancing the southward expansion policy by not only securing peace in the north, but also rebalancing the deteriorating relationship with the US through forging stronger relations with the Soviet Union.

In June 1941, Germany suddenly invaded the Soviet Union, beginning the Eastern Front of the war. In response to this situation, an Imperial Conference was held on July 2, 1941, and with strong insistence from the military, it was decided to advance southward despite the risk of war with the UK and the US, and, should the opportunity present itself, to move against the Soviet Union (i.e., the northward advance policy). The Second Konoe Cabinet planned to continue negotiations with the US, and to this end first resigned en masse to remove Foreign Minister Matsuoka, who had an uncompromising stance towards the US. However, immediately after the establishment of the Third Konoe Cabinet, at the end of July the **Japanese invasion of French Indochina**, which had already been planned, was carried out, and in response the **US froze Japanese assets in the US and prohibited the export of petroleum to Japan**. The US thus expressed its intent to prevent Japan's advance to the south and plans to create a New Order in East Asia, a view with which the UK and the Netherlands concurred. The Japanese military, feeling a crisis was imminent, asserted that war was the only way to counter Japan being oppressed by "ABCD encirclement."

The Imperial Conference of September 6 sanctioned the **Guidelines for Executing Imperial Policy** that established early October as a deadline: should diplomatic negotiations prove unsuccessful by that time, then Japan would embark on hostilities against the US (along with the UK and the Netherlands). With the U.S. insisting on a total withdrawal of Japanese troops from China, however, US-Japan negotiations continued through mid-October without a compromise being reached. Prime Minister Konoe strongly desired to continue talks with the US in order to reach an agreement, but he faced opposition from the army minister, Tōjō Hideki (1884-1948), who insisted on ending negotiations and going to war. This ultimately led to the resignation of the Konoe Cabinet on October 16.